

◎急展開する県主導の水道広域化

…改正・水道法と奈良県「南北問題」を露呈する垂直統合構想

☆地域資源ため池を活かした葛城市水道の可能性を考える

◎取材中に拾い上げた県域水道一体化構想の主な課題について ①～⑪

～広域化企業団が設立された場合、体質として受け継がれるものは何か

- ① 「水道の自治」縮小と健全な水循環追求の軽視
- ② 料金30年後の試算を誇示するも、30年後の水源コストの試算なし
- ③ 県民への情報提供が不十分…「何としても伝えよう」という思いがあるかどうか
- ④ 水道消費者である「県民参加」に向けた努力は不十分
- ⑤ 広域化計画の長短が検証されていない。中立の第三者委員会も開かれず
- ⑥ 知事肝いり県主導のトップダウン～県と市町村の関係は対等か？
- ⑦ 乱高下する一体化効果額
- ⑧ 精度欠く？一体化財政シミュレーション
- ⑨ 主水源の1つ、大滝ダムの課題を不問にしている  
(地質と堆砂、導水距離の長さ、事前放流)
- ⑩ 水源地の未来をどう考えていくか
- ⑪ 奈良盆地の地下水、ため池浄水場を軽視することの問題について

【県内外の取材事例から】

◎水源開発のエース、試される奈良市営水道の判断

◎波紋を投げかけた大和郡山市水道の内部留保移転

◎地下水の証人、県中央卸売市場の45年を支えた水源

◎惜しまれる王寺周辺合併の挫折と教訓…幻の16万都市水道事業

◎小規模事業者と共同してミニ広域化を成した北九州市

※問い合わせ先 info@asano-eiko.com